

「SMART 2030」における ESGの取り組みなど

QUESTION

サステナビリティ体制の施策と進捗について教えてください

サステナビリティ推進の中核組織であるサステナビリティ委員会を刷新しました。全社横断的に集まった24名のメンバーが各種ワーキンググループを構成し、ESGの諸課題について活動の強化を図っています。

「E」環境分野のトピックとしては、今年度、大潟工場の使用電力を100%再生可能エネルギーに転換し、年間約4,000トンのCO2削減が見込まれます。さらに滋賀工場ではMVR設備を導入したことで約2,000トン削減。合わせて約6,000トンのCO2を今期は一気に削減することになり、2030年の到達目

標が大きく前倒しされそうです。

また、グローバルなESG投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に初選定されたほか、環境配慮に関する企業の管理姿勢を評価する「EcoVadis」でオランダのグループ会社Sisterna B.V.が「ゴールド」グレードを獲得。環境負荷軽減や気候変動などに向けた製品開発や取り組みが評価され、さまざまな外部評価の取得につながっています。

「S」社会への取り組みでは、特に人的資本に注力します。人財は会社の宝であるという考えのもと、教育制度も含

めて「成果を出した人が報われる」人事制度へと刷新。スキルマップやキャリアプランなど仕組みを今年度中に整えて、定着を図ります。

女性管理職比率は最新データで9.7%です。採用人数に占める女性の割合は年々上昇しているため、「SMART 2030」の目標値である女性管理職比率15%達成に向けて体制を整えています。採用面では、事業の成長にともない即戦力となる人財不足が顕在化しており、キャリア採用、グローバル人材採用とともに、退職者の再雇用も積極的に推進しています。

経営層も従業員も同じ方向性を共有!

ANSWER

全社的なリテラシー向上と浸透が最優先課題です

全準拠を達成しました。

ESGのさまざまな課題に対する活動や取り組みを通して、当社のサステナビリティ体制は深化しつつあると感じています。ただ、道半ばであるそれを確立するためには、サステナビリティについての全社的なリテラシーを高めることが重要です。

国連グローバルコンパクトのカードゲーム「Game of choice」があります。ゲームをしながら持続可能なCSR調達を学ぶ取り組みです。経営層を含む総勢60名が参加し、大変盛り上がりました。これは全社的な活動として各拠点も回っていきたくと考えています。また

GX検定受験を推進しており、合格者が3年前の3名から昨年は130名へと大幅に増加しました。こうしたリテラシー教育や活動を通じて全社で意志を共有し、目標以上を求めていきたいと思えます。

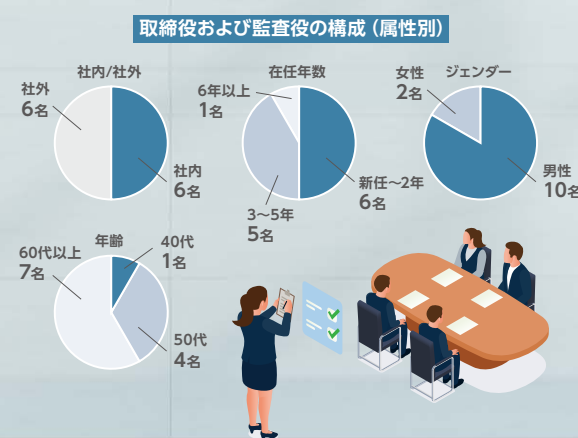
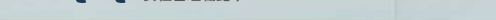
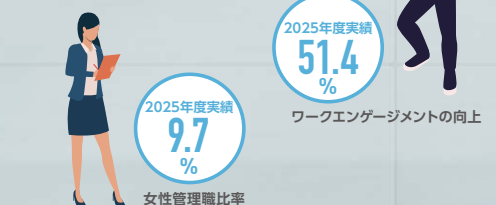
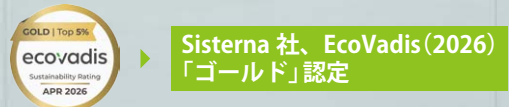
ESGの中で最も重要視しているのは「S(人的資本)」です。なぜなら、すべての源泉は「人」にあるからです。人が生き生きと働いてこそ、「E」の課題解決も、「G」の健全な機能も実現できます。全社員が方向性を共有し、一丸となって歩みを進めることができれば、企業価値の持続的な向上は自然ともたらされます。これこそが、私たちがめざす経営の本質です。

DKS ESGの取り組み

Environment 2030年目標
■環境貢献型製品 売上高比率:30%以上
■GHG排出量削減 GHG排出量:30%削減(対2013年)
■モーダルシフト モーダルシフト化率:40%以上

Social 2030年目標
■人権尊重 人権を尊重した事業活動
■戦略的人財育成 年間研修時間:30h以上/人
■DE&Iの推進 女性管理職比率:15%以上

Governance 2030年目標
■経営・執行一体化経営 適切な距離感、信頼関係
■社外役員の役割 経営の監督と持続的成長支援
■データガバナンス データの信頼性と安全性強化



本社の立地の良さを生かして社内外との交流が活発化! 地域とのつながりや協働社会の実現にも貢献しています。坂本 真美 取締役 上席執行役員 管理本部長



Game of choice
さまざまなステークホルダーになりきってCSR調達の重要性を学べるゲーム。役職などの垣根を越えて盛り上がりやすい。